



燃料 無鉛レギュラーガソリン



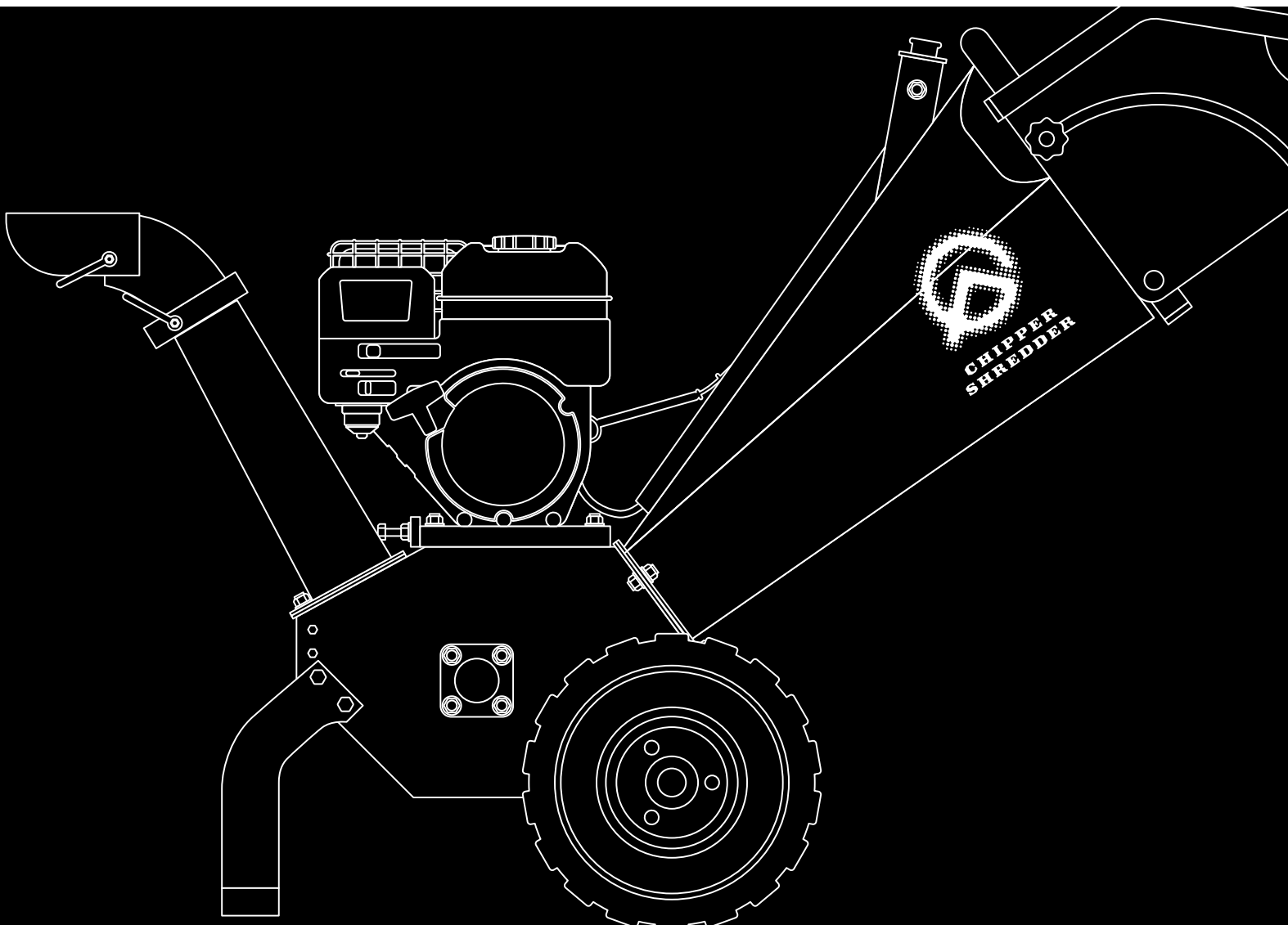
エンジンオイルは
入っていません

ご使用前に必ず取扱説明書をお読みになり、
内容を理解の上お使いください。

エンジン粉砕機

CS100KN

OPERATING MANUAL



はじめに

この度は、当社のエンジン粉砕機 CS100KN をご購入いただき厚くお礼申し上げます。

本製品がいつまでもお役に立ちますよう、取扱説明書を十分お読みの上、ご使用ください。

メーカーは、機械の用法、運転、点検、整備を直接監督指導することはできません。

正しく安全に作業を実施するのは、あなた自身です。

尚、この取扱説明書で述べていることの他にも作業によっては、

法令、条例、規則や保険条件などが適用されることがありますので十分ご注意ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。

尚、仕様変更などにより本製品と取扱説明書の内容が異なる場合もありますのであらかじめご了承ください。

本製品には、保証書が添付しています。詳細は、本書巻末の保証書をご覧ください。


❗ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた **❗** の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。なお、ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し必ず所定の位置に貼ってください。ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

注意表示に関して

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項に関して次のように表示しています。

❗ 警告	注意事項を守らないと、死亡または重症を負う危険性があります。
⚠ 注意	注意事項を守らないと、けがまたは家屋や財産に損害を負うおそれがあります。
🚫 禁止	指定行為を禁止します。
❗ 指示	指示行為を強制します。

❗ 警告	
	● エンジンオイルの補充は、オイル量が適正でないとエンジンが焼き付きをおこして故障します。エンジン焼き付きによる故障は保証対象外ですのでお気をつけください。

サービス (相談窓口)

ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または弊社営業所にお気軽にご相談ください。その際、本機の型式と製造番号・ご購入日などをご連絡ください。疑問がある場合は、作動させたりせず、下記へお問い合わせください。

プラウカスタマーサポート  **025-530-6025**

も く じ

1	安全にお使いいただくために	3
2	サービスと保証について	5
3	表示ラベルとその取扱い	6
4	各部の名称	7
5	梱包部品一覧	8
6	運転前の点検	9
	エンジンオイルの補充・点検	9
	燃料の補充・点検	9
	投入口と排出口の点検	10
	投入口ホッパーの開き方	10
	回転刃と固定刃の点検	10
	ベルトの点検	11
	エアクリーナーの点検	11
	タイヤの点検	11
	グリス・潤滑油の塗布	11
	固定ボルトの点検	11
7	粉砕機の使い方	12
	作業ポジションエリア	13
	排出口（シューターヘッド）の角度調整	14
	排出口（シューターヘッド）の向き調整	14
	エンジンのかけ方	15
	エンジンの止め方	16
	緊急停止ボタン	16
	粉砕作業	17
	ご使用後の点検	18
	木片が詰まったとき	19
	刃のついた回転軸が動かないとき 1	19
	刃のついた回転軸が動かないとき 2	20
8	メンテナンス	21
	燃料の抜き方	22
	エンジンオイルの交換	22
	回転刃・固定刃の点検	23
	グリスの塗布	24
	エアクリーナーの点検・清掃	24
	点火プラグの点検・清掃	25
	長期間使用しない場合	25
9	故障かな？と思ったら	26
10	仕様表	27
	パーツリストについて	29
	保証書	29



1 安全にお使いいただくために

エンジン粉砕機の安全に係る事項



！ 警告

<p>⊘ 禁止</p>	<ul style="list-style-type: none">・燃料の臭いがする場合は運転しないでください。爆発の恐れがあります。・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡する恐れがあります。・エンジンが熱いうちは、給油してはいけません。・燃料が漏れたり、こぼれたままでエンジンを始動しないでください。・運転時や給油時は喫煙など火気を発生させないでください。・屋内など、換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。・可動している部分の近くに手又は足を入れないでください。・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがあるので注意してください。・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業をさせてください。・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。・運転中は絶対投入口、排出口をのぞき込んだり、排出口の下に入らないでください。・周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。・本機は、枝などを粉砕する粉砕機です。指定された用途以外には使用できません。
<p>！ 指示</p>	<ul style="list-style-type: none">・自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。・燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。・運転中に点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。・ご使用前にこの取扱説明書をお読みになり、取扱いの注意事項をよくご理解の上、ご使用ください。・停止中でも、直接刃物に触れないでください。怪我をすることがあります。・エンジンの周りに、木くずなど燃えやすいごみを蓄積させないでください。・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。・点検整備を行なう場合は、エンジンスイッチをオフにしてください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。・ガソリンエンジンの点検整備を行なう場合は、点火プラグキャップを外してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。・エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。・回転している刃に接触すると負傷または死亡する恐れがあります。・始動前点検の実施をしてください。・破損した部品交換の修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



！ 注意

 禁止	・指定された用途以外には使用しないでください。
 指示	・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使ってください。 ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。 ・給油中、燃料タンク内に雪や水、ホコリなどが入らないように注意してください。 ・部品交換は、純正部品を使用してください。 ・本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。 ・定期点検整備を行ってください。 ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

！ 警告

 禁止	・身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。 ・動作中に回転部分に顔や手足を近づけないでください。 ・ご使用時は、使用者から15m内は危険です。特に投入口前や排出口前には人や動物が近づかないようにしてください。 ・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。 ・転倒しやすい場所では使用しないでください。 ・作業中に異物に当たったり、異物を吸い込んだ場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部分が完全に停止してから異物を除去し、異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ装置を再始動しないでください。 ・不安定な場所で粉碎機を運転しないでください。 ・燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
 指示	・水平で安定した場所に設置してください。 ・適切な時期に休憩をとってください。 ・本機から離れる時や危険を感じたり予測される場合は、必ずエンジンを停止してください。 ・持ち運ぶ時は、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜きとってください。 ・修理の知識や技術のない方が修理をすると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。 ・本機を搬送の際、積み込み、積み下ろしは二人以上で行ってください。 ・移動する時は、刃の回転を止めてください。 ・作業中に異物が巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部分が完全に停止してから異物を除去し、刃に異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。 ・雨天時は使用しないでください。 ・舗装地、砂利、その他硬い地面で使用しないでください。振動で本体が動き思わぬ事故につながる恐れがあります。 ・機体に堆積した木クズ等はきれいに取除いてください。火災の恐れがあります。

！ 注意

 禁止	・機械の稼働部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。 ・エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。
 指示	・エンジンの空気吸入口に草などが堆積するとオーバーヒートや熱による機体の異常が発生する可能性があります。作業前に必ずエンジンの空気吸入口を点検し、草などが堆積している場合は清掃してください。 ・長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい靴、手袋、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。 ・長い髪は束ねて帽子、ヘルメットでカバーしてください。 ・シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。 ・本機を長期保管するときは、取扱説明書にしたがって定期点検を行った上で安全な場所に保管してください。

2 サービスと保証について

製品保証

本製品には、保証書が添付してあります。詳細は、保証書をご覧ください。

サービス（相談窓口）

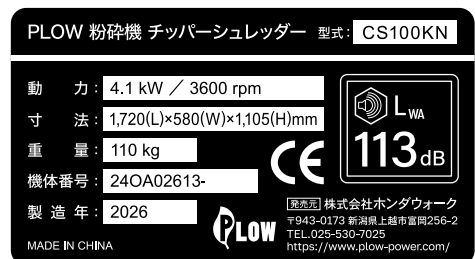
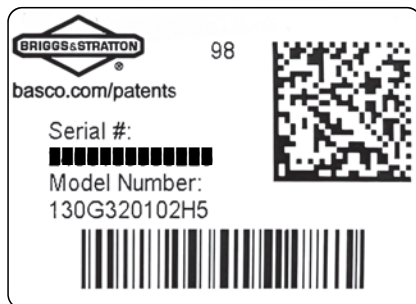
ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または弊社営業所にお気軽にご相談ください。

その際、本機の型式と製造番号・搭載エンジンの型式・ご購入日などをご連絡ください。



□ エンジン型式、製造番号貼り付け位置

□ 型式、製造番号貼り付け位置

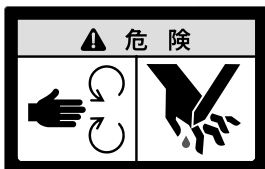
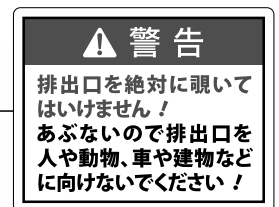
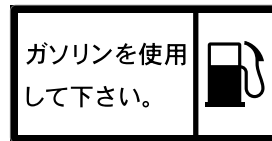
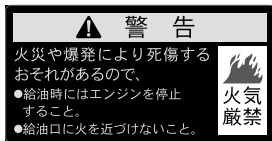
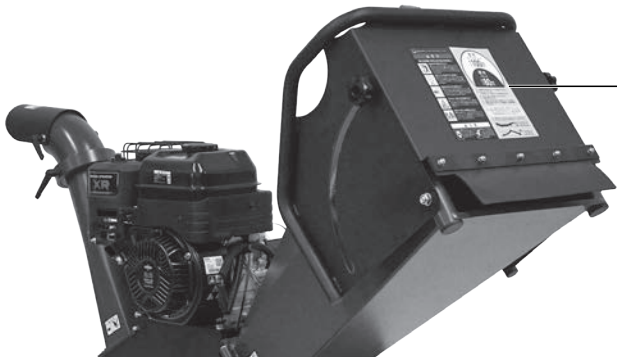


3 表示ラベルとその取扱い

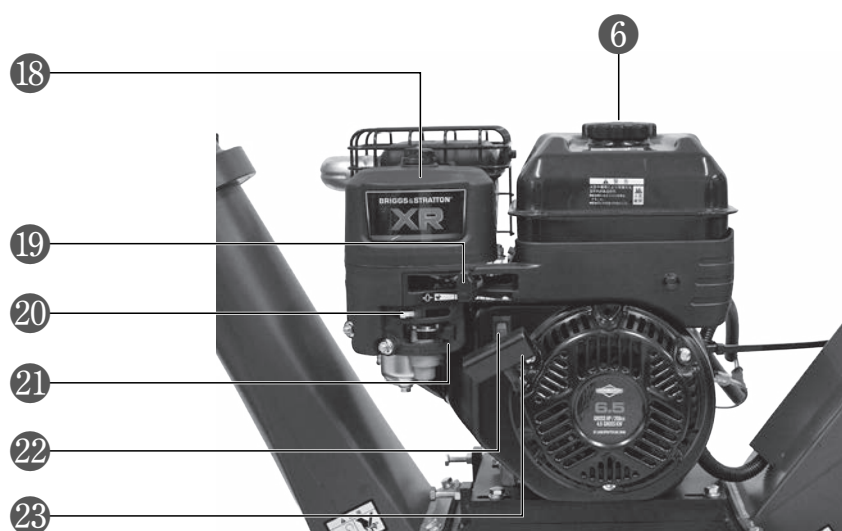
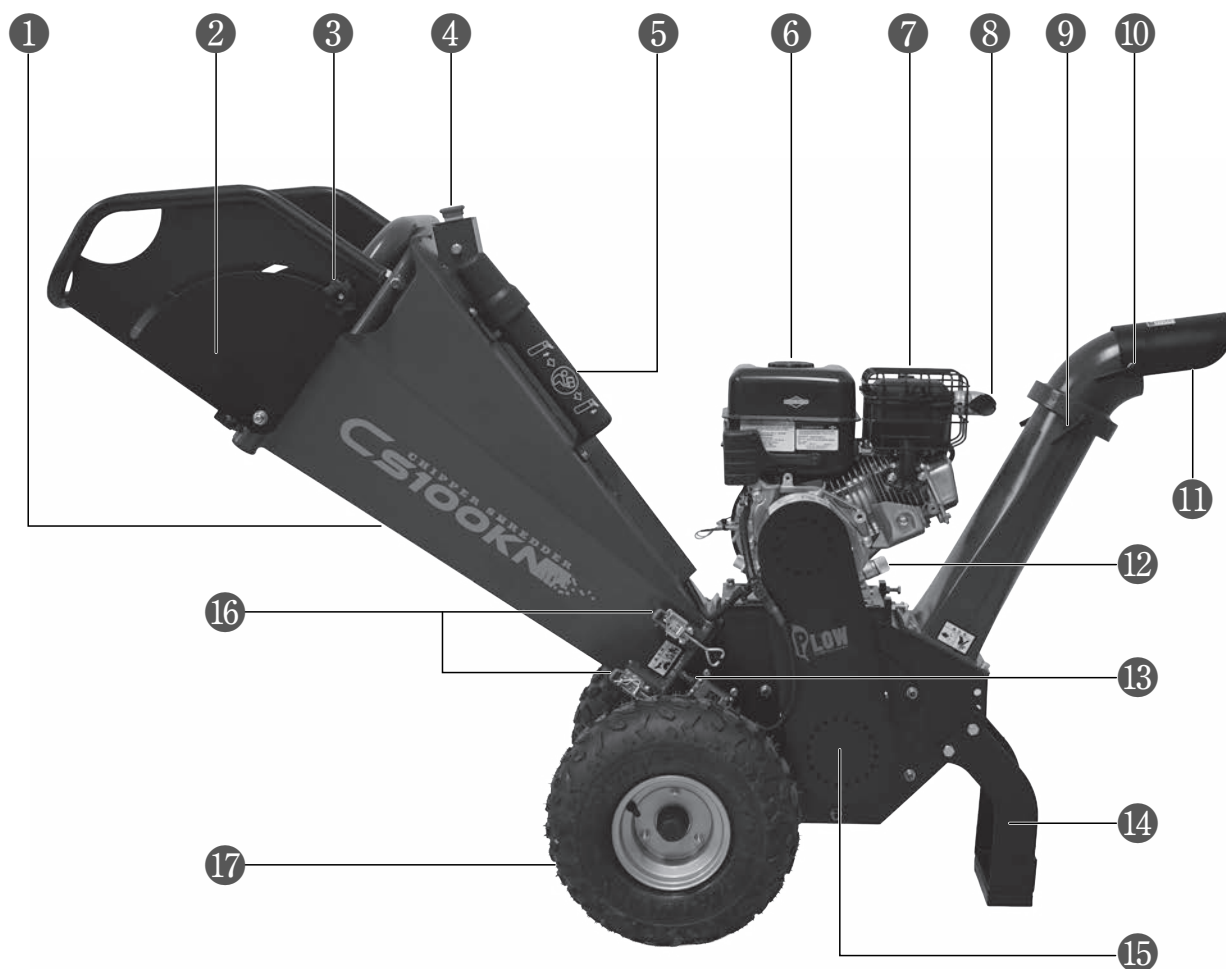
表示ラベルの手入れと貼付位置

本機には安全についてのラベルが貼ってあります。良く読み理解した上で運転してください。

- ① ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- ② 汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し所定の位置に貼ってください。
- ③ ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。
- ④ 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後元の位置に貼ってください。



4 各部の名称



- ① 投入口 (ホッパー) ② ホッパーカバー ③ 回転ハンドル ④ 緊急停止ボタン ⑤ マニュアルポケット
- ⑥ 燃料給油口 ⑦ エンジンマフラー ⑧ マフラーカッター ⑨ 排出口 (シューターヘッド) 方向調整レバー
- ⑩ 排出口 (シューターヘッド) 角度調整レバー ⑪ 排出口 (シューターヘッド) ⑫ エンジンオイル給油口
- ⑬ 安全停止スイッチ ⑭ フロントレッグスタンド ⑮ ベルトカバー ⑯ ホッパーロック (トグルクランプ) ⑰ タイヤ
- ⑱ エアクリナー ⑲ スロットルレバー ⑳ チョーク ㉑ 燃料バルブ ㉒ エンジンスイッチ ㉓ リコイルスターター

5 梱包部品一覧

- ・梱包部品のすべてを慎重に箱から取り出してください。
- ・すべての部品に不足や問題がないことを確認してください。
- ・梱包材を慎重に確認し、使用する前に廃棄はしないでください。
- ・不足している場合は、お手数ですが購入した販売店までご連絡ください。

！ 警告

本機を取り出す際は取付金具で手を怪我しないよう、作業手袋を着用して作業を行ってください。
不足物がある場合は、不足している部品が入手されるまで使用はしないでください。

A 粉碎機本体



B 粉碎機保護カバー



D T型レンチ



E 点火プラグレンチ



F 多機能工具



G 保護カバー収納袋



H 取扱説明書(本書)



I エンジン取扱説明書 (多言語)



梱包部品以外でご用意いただくもの

[運転時に必要なもの]

- ・無鉛レギュラーガソリン
- ・4ストロークエンジンオイル SJ 10W-30

[メンテナンス時に必要なもの]

- ・16mmトルクレンチ工具
- ・10mmレンチ工具
- ・8mm L型六角レンチ工具
- ・バネ測り
- ・グリスとグリス注入器
- ・ワイヤブラシ など

警告



運転前には、**燃料、エンジンオイルの補充と点検を必ず行ってください。**
エンジンオイル量が適量補充されていないまま操作を行うと故障しますのでご注意ください。

禁止

- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。

指示

- ・燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・エンジンオイルが汚れている場合は、新しいエンジンオイルに入れ替えてください。

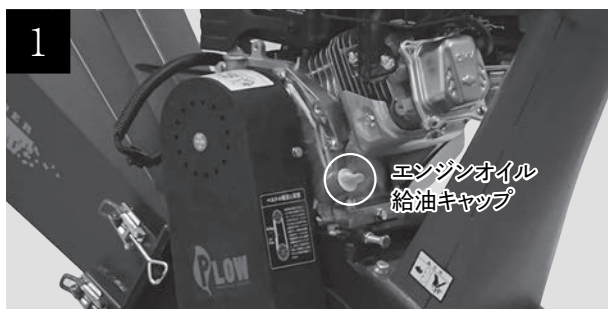
エンジンオイルの補充・点検

推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 SJ 10W-30
オイル量	0.6 L

注意

ご使用前、または8時間使用ごとにエンジンオイル量の点検を行ってください。オイルゲージをこまめに確認しながら給油を行います。エンジンオイル量を適切に保ち、過剰に充填しないでください。

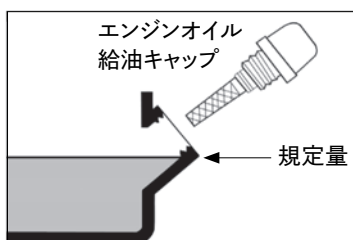
エンジンオイルの量、よごれを確認します。



本体を水平な場所に移動させ、エンジンオイル給油キャップを外します。オイルゲージを布などで拭き、汚れを確認してください。給油口の規定量までオイル量があるか点検します。

2

オイル量が少ない時は、新しいオイルを、規定量の上限位置まで補給します。



3

補給後、エンジンオイル給油キャップを確実に閉めます。

燃料の補充・点検

使用燃料	自動車用 無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	3.1 L

注意

燃料補充の際は、燃料タンクキャップを外す前に、エンジンがOFFであることを確認し、エンジンを少なくとも2分以上冷ましてからキャップを外してください。燃料は過剰に入れないように注意してください。

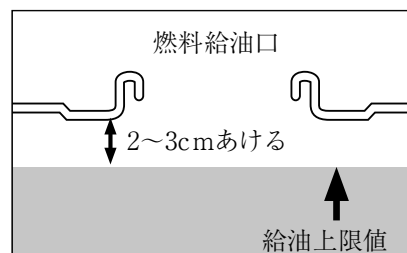
燃料（無鉛レギュラーガソリン）の量を点検します。



燃料タンクキャップを外し、液面を見て残量を確認します。

2

少ない時は上限の位置まで補給し、給油上限値を超えないようにします。



3

補給後、給油タンクキャップを確実に閉めます。

投入口と排出口の点検

！ 警告

- ・投入口（ホッパー）、排出口（シューター）には絶対に手や指を入れないでください。
- ・点検は必ずエンジンがOFFであることを確認の上行ってください。
- ・排出口（シューター）元の固定ボルトは、緩んでいたら必ず増し締めをしてください。

投入口（ホッパー）、排出口（シューター）内に異物、枝木などが入っていないことを確認します。確認の際は棒などを使用して確かめてください。異物や、枝木などが残っている場合は、取り除きます。

1



左右の回転ハンドル
反時計回り - 緩む

ホッパーカバー横の回転ハンドル（左右2箇所）をそれぞれ反時計回しに回して緩めます。

2

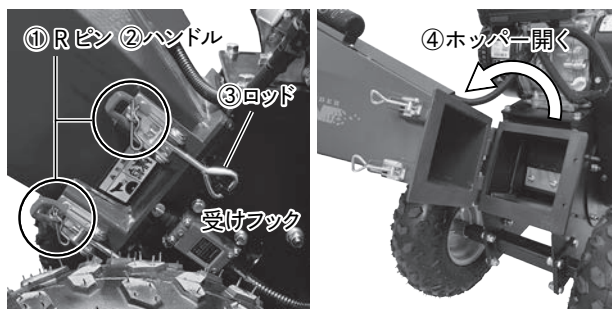


ホッパーカバー開く
左右の回転ハンドル
時計回り - 締まる

ホッパーカバーを完全に開き、回転ハンドル（左右2箇所）を時計回しに回して締め、ホッパーカバーを固定します。

投入口ホッパーの開き方

投入口（ホッパー）を開くと、回転刃が見えるようになります。



2箇所のホッパーロック（トグルクランプ）を解除して開きます。

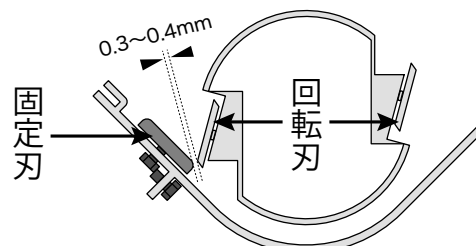
- ① Rピンを取り外します。
- ② ホッパーロックのハンドルを起こして解除します。
- ③ 受けフックからロッドを外します。
- ④ ロックを外すと投入口（ホッパー）が開くので、注意しながらゆっくりと横に傾けて開けてください。

回転刃と固定刃の点検

！ 警告

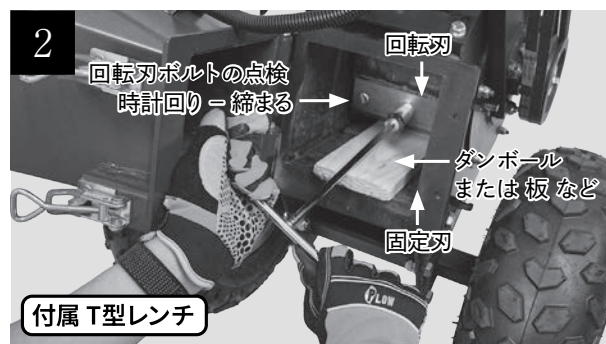
- ・回転刃と固定刃のボルトが緩んでいたら必ず増し締めを行ってください。怠ると重大な事故の原因になります。
[増し締め方法は23ページを参照してください]

1



投入口（ホッパー）を開けます。回転刃（2枚）と固定刃に、割れ、曲がり、磨耗などの異常、緩みがないか確認します。回転軸シャフトを回し、2箇所の刃の点検を行います。
[回転軸シャフトのまわし方は19ページ「刃がついた回転軸が動かないとき1」を参照してください]

2

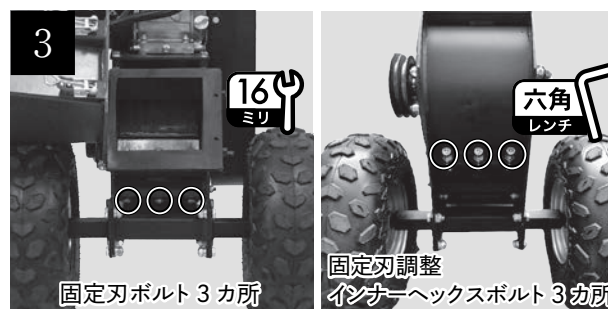


回転刃2箇所のボルト（各3カ所）がゆるんでいないか確認してください。その際、刃がついた回転軸が回らないようにダンボールや板などを挟みます。付属のT型トルクレンチを使用して緩みがないか点検をします。

！ 注意

- ・回転刃のボルトは、頭が薄い低頭ボルトを採用しています。ボルトの頭をなめないように慎重に行ってください。

3



本体側に取り付けられている固定刃に緩みがないか確認してください。本体下側からそれぞれボルトに緩みがないか点検をします。

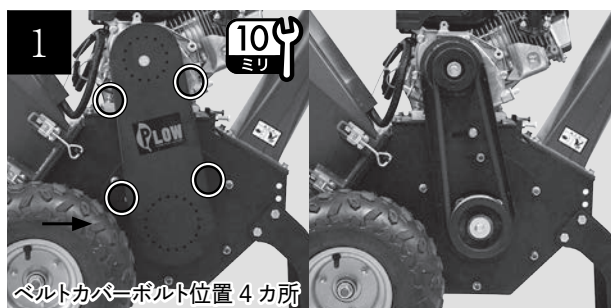
ベルトの点検

！ 警告

- ・エンジンをかけたまま絶対に点検をしないでください。
 - ・ベルトカバーを外したままエンジンをかけてはいけません。
 - ・ベルトに亀裂や摩耗、損傷がある場合は、使用を中止し、ベルトを交換してください。
- 上記を守らない場合は、重大な事故の原因につながります。

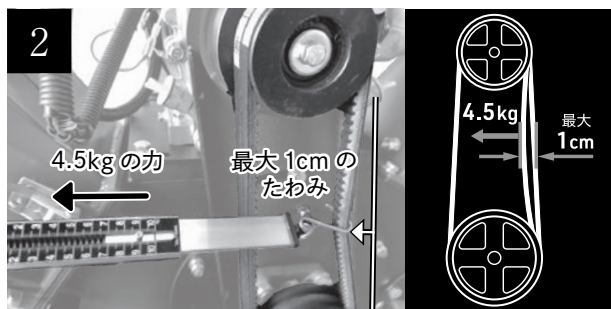
！ 注意

ベルトの摩耗・亀裂・焼けがある場合は交換が必要です。ベルト交換が必要な場合は、ご購入された販売店、またはブラウザカスタマーサポートへご相談ください。



ベルトカバーボルト位置 4カ所

ベルトカバーを止めている4カ所のボルトを10mmレンチで外し、ベルトカバーを取り外します。



ベルトに亀裂や摩耗、損傷がないか確認します。バネ測りをベルトにセットし、4.5kgfで引きます。ベルトのたわみ量が適正であることを確認します。

ベルトのたわみ適正值	最大 10 mm
------------	----------

3 ベルトカバーを取り外しの逆手順で取付けます。

ベルトカバーボルト締付トルク	8 ~ 12 Nm
----------------	-----------

エアクリーナーの点検



エアクリーナーカバーの蝶ネジを外し、カバーをとりはずします。

2 汚れがひどい場合は、エアクリーナーの清掃や交換を行ってください。

[エアクリーナーの点検・清掃方法は24ページ]

3 取り外しと反対の手順で取付けます。

タイヤの点検

タイヤに破損や亀裂がないかを目視にて確認します。パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。

タイヤの空気圧の確認を行ってください。

タイヤサイズ	AT 145 / 70 - 6
タイヤの空気圧 (最大)	69 kPa (0.7 kg/cm ²)



グリス・潤滑油の塗布

使用前には可動部分へのグリスや潤滑油塗布を行ってください。[グリス・潤滑油塗布の方法は24ページ]

固定ボルトの点検

使用前には本体に固定されている各所ボルトのゆるみがないか点検を行ってください。

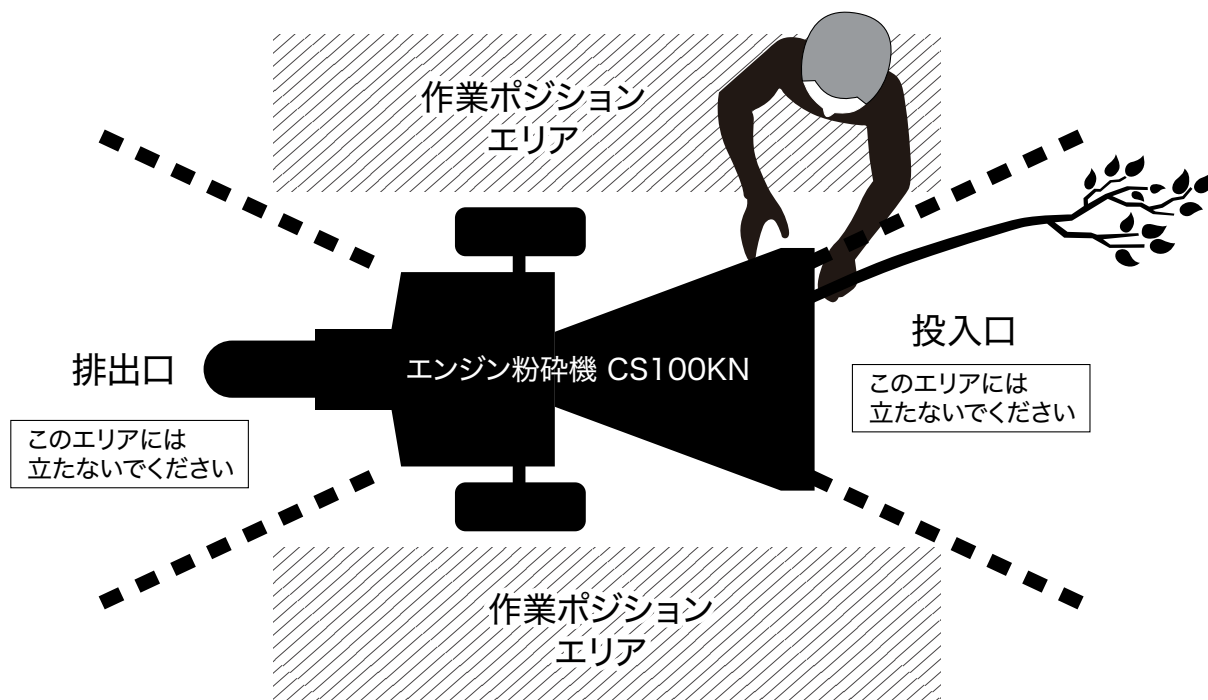
 警告

<p> 禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・換気の悪い場所での使用はできません。 ・燃料を補給した場所ではエンジンをかけないでください。 ・本機から排出される排気ガスには有害な物質を含んでいます。エンジン始動の際は必ず屋外の換気の良い場所で使用し、本機のマフラーが作業人や人に向かないように作業を行ってください。 ・エンジン始動時は投入口（ホッパー）内や入口に手や工具など絶対に近づけないでください。 ・回転している部分の近くに顔を近づけたり、手や足を入れないでください。 ・作業時には、使用者から 15m 以内は危険な範囲です。粉砕機の周辺に作業者以外の人や動物が近づかないようにしてください。 ・エンジン始動と同時に刃が動きますので注意してください。 ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがあるので高温部に触れないでください。 ・本機の近く人火気類を近づけないでください。また作業者は、たばこやマッチ等、火気類の使用はしてはいけません。 ・ヘッドホンやラジオ、イヤホンなどは周りの音や異常音に気づきにくい場合があります。作業中は使用しないでください。 ・身体の調子が悪い時、判断力に影響するような薬物や酒類を服用して使用しないでください。 ・悪天候や夜間、霧が発生している時など、視界が良くないときは使用しないでください。 ・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では危険ですので使用しないでください。 ・太い枝などが食い込んでしまった場合は、必ずエンジンを停止してから枝を取り除いてください。 ・作業中に異物を吸い込んだり、当たったりした時は、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止したことを確認してから異物を取り除いてください。刃の異常がないかを調べ、異常があった際は補修が必要です。補修を行わないまま再始動はしないでください。 ・粉砕できる枝葉や草、生竹以外の異物（金属、石、ビニールなど）を混入しないでください。重大な事故の恐れがあります。 ・燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。 ・安全装置を決して改造しないでください。定期的に正しく作動しているか確認してください。
<p> 指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱説明書をよく読んで正しく操作してください。 ・本機のエンジン始動の時は、必ずエンジンオイルが適量充填されているか確認してください。適量充填されていない状態で始動するとエンジンが焼き付きを起こし、重度の故障となります。またその場合の故障についてはいかなる理由でも保証対象外となりますのでご注意ください。 ・本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。危険を予測される時や、感じた場合はエンジンを停止します。 ・作業者は作業ポジションエリア内に立ち、作業を行ってください。複数人での作業は思わぬ事故の恐れがあるので行わないでください。 ・作業は自身や周囲の確認をしながら安全に行ってください。周囲に人や動物がいないことを確認してください。 ・作業時は適切な時期に休憩をとってください。 ・平坦で安定した地面の上で作業を行ってください。 ・作業前は投入口（ホッパー）に何も入っていないことを確認してください。 ・手袋、長袖シャツ、保護メガネなどの保護に適した服装で作業を行ってください。長い髪は束ねて帽子やヘルメットでカバーしてください。 ・エンジン始動後、異常は感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。 ・本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。 ・少しの移動であっても、エンジンは必ず停止してください。

作業ポジションエリア

□ 作業ポジションのチェック

- 作業者は作業ポジションエリア内に立ち、作業を行ってください。
- 複数人での作業は思わぬ事故の恐れがあるので行わないでください。
- 作業ポジションエリア外、投入口、排出口の前は大変危険ですので立たないでください。
- 周囲に人や動物がいないことを確認してください。



□ 服装のチェック

- 手・足・目・口・頭部に対し、適切な手袋・長袖・長ズボン・すべりにくい靴・保護メガネ・防塵マスク・ヘルメットなどの作業に適した服装で作業を行ってください。
- だぶつきのない活動しやすい作業服を着てご使用ください。また機械の稼働部分に絡まる危険のある装飾品や名札、ペン、タオル、マフラーなどは身につけて作業をしないでください。
- 長い髪は束ねて帽子、ヘルメットでカバーをしてください。

□ エンジン始動前の確認事項

- 周囲や作業スペース、足場の安全は確認できていますか？
- 燃料は購入1か月以内の新鮮なものが適量充填されていますか？
- エンジンオイルは適量充填されていますか？
- 作業環境は屋外の換気の良いところで行っていますか？
- 作業スペースは水平な場所で行っていますか？
- 投入口（ホッパー）内に異物などが入っていませんか？
- 投入口（ホッパー）はしっかり閉じて、ホッパーロックはかけられていますか？
- 作業者は作業するのに適した服装、安全防具を装着していますか？

排出口(シューターヘッド)の角度調整

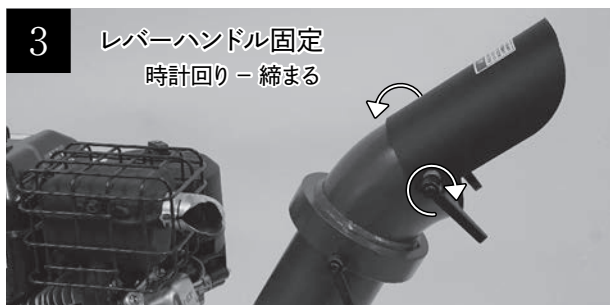
排出口(シューターヘッド)角度を調整します。



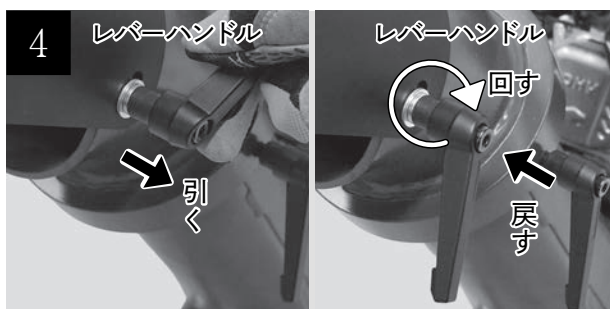
排出口(シューターヘッド)の写真の2箇所のレバーハンドルを反時計回りに回して緩めます。



排出口(シューターヘッド)を最適な角度に回転させます。



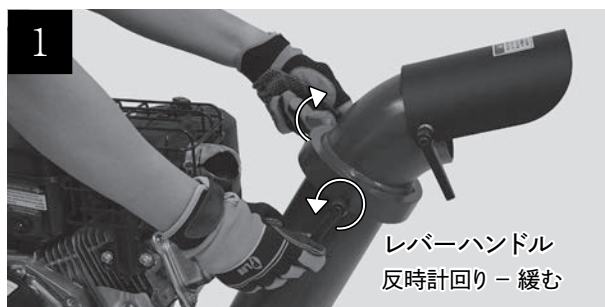
角度が決まったら、2箇所のレバーハンドルを時計回りに回して締付けます。



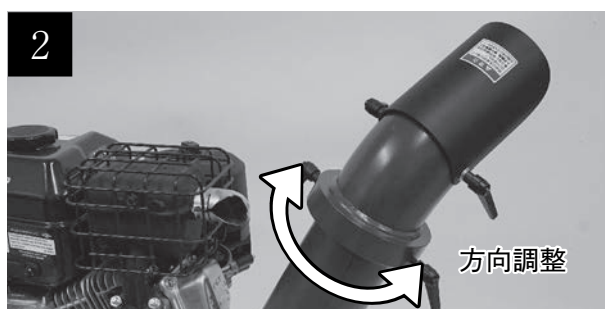
レバーを好きな位置に変更する場合は、レバーハンドルを引いて回し、任意の位置で引いたハンドルを戻してください。

排出口(シューターヘッド)の向き調整

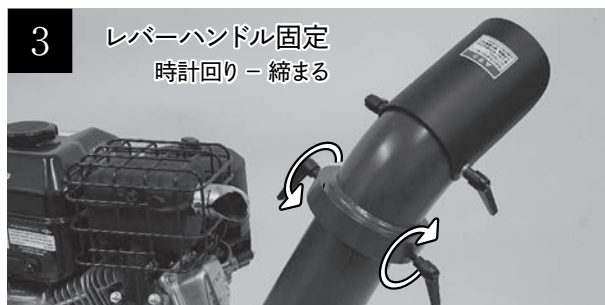
排出口(シューターヘッド)向きを調整します。



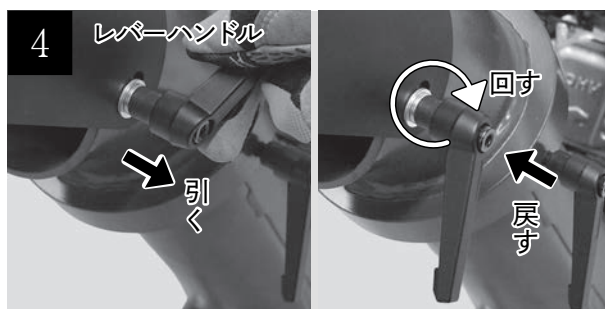
排出口(シューターヘッド)の写真の2箇所のレバーハンドルを反時計回りに回して緩めます。



排出口(シューターヘッド)を最適な方向に回転させます。



方向が決まったら、2箇所のレバーハンドルを時計回りに回して締付けます。



レバーを好きな位置に変更する場合は、レバーハンドルを引いて回し、任意の位置で引いたハンドルを戻してください。

警告

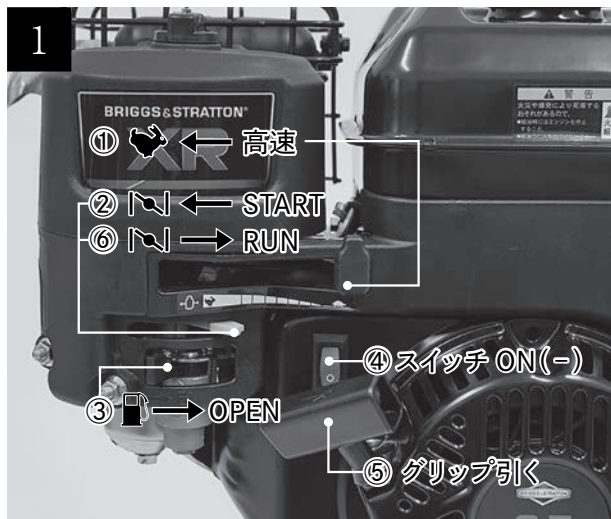


運転前には、**燃料、エンジンオイルの補充と点検を必ず行ってください。**

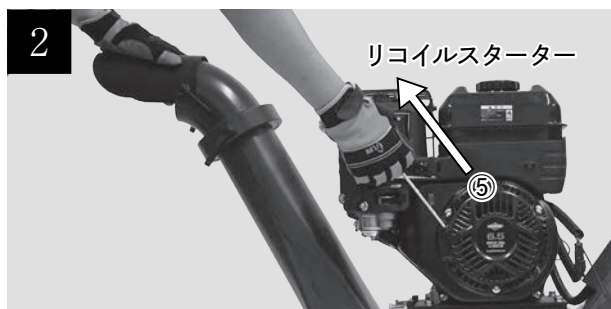
◎ エンジンオイルの補充は、オイル量が適正でないとエンジンが焼き付きをおこして故障します。エンジン焼き付きによる故障は保証対象外ですのでお気をつけください。

エンジンのかけ方

燃料・エンジンオイルはそれぞれ適正に入っているかを確認の上、操作してください。



- ① スロットルレバーを「高速 (←)」の位置にします。
- ② チョークレバーを「START (←)」の位置にします。
- ③ 燃料バルブを「OPEN (→) 開」にします。
- ④ エンジンスイッチを「ON (-)」にします。

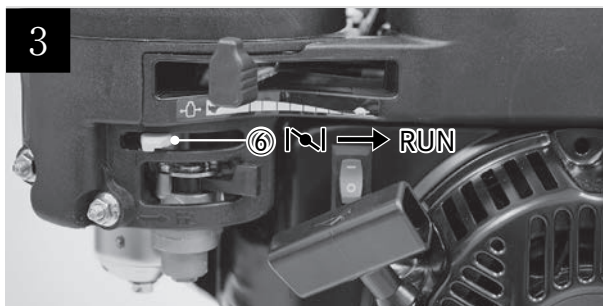


- ⑤ 後方の安全を確認します。機体を安定させるため、左手で機体を抑えます。右手でリコイルスターターのグリップを握ってリコイルロープを引きます。

Point

ロープをゆっくり引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く60cm～70cmほど引きます。引きが少ないとエンジンはかかりません。穴に対してロープをまっすぐに引いてください。

1回引くだけでは始動しない場合があります。その場合は2回～3回リコイルロープを引いてください。



⑥ エンジンが始動したら、ゆっくりとチョークレバーを「RUN (→)」にします。1～2分ほど暖機運転を行い、運転状況が安定してきたら作業を行ってください。

- 4 粉砕作業を行います。

[粉砕作業の方法 17 ページへ]

注意

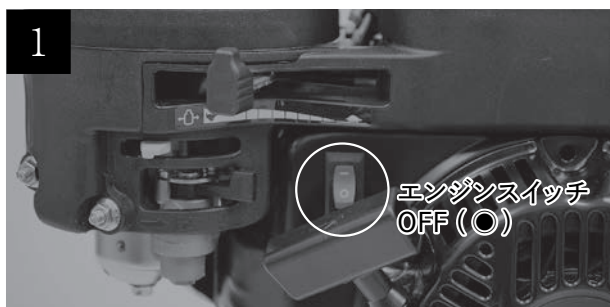
粉砕時は、必ずスロットルレバーを「高速 (←)」の位置にして粉砕作業を行います。「低速 (→)」で作業を行うと、出力不足によりエンジンが停止します。

気温が高い場合や、エンジンが温まっている状態で始動する場合は、チョークレバーを「RUN (→)」の状態でもエンジンを始動してください。

チョークレバーを「START (←)」の状態でも何度もしリコイルロープを引くと点火プラグに燃料が被った「被り」の状態となりエンジンが始動できない場合があります。その場合は20分～30分ほど時間を置き、被った燃料が気化するのを待ってから再度始動してください。

エンジンの止め方

すぐにエンジンを止めず、空運転を1分～2分行います。
内部の粉碎クズを排出させます。



エンジンスイッチを『OFF (O)』にします。



燃料バルブを『CLOSE  (←) 閉』にします。

! 注意

粉碎時は、エンジンが完全に冷えてから収納してください。

緊急停止ボタン

エンジン音をよく聞き、回転が著しく低下したり、ベルト周辺から白煙が出た時は、緊急停止ボタンを押し込んでエンジンを停止します。



緊急停止ボタンを押し込むとエンジンが停止します。



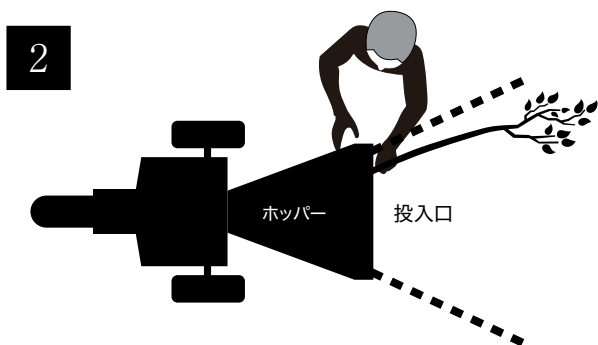
ボタンを復帰しないとエンジンはかかりません。
復帰方法は緊急停止ボタンを矢印の向き（時計回り）に回すとボタンが戻ります。

粉碎作業

振動で粉碎機が思わぬ動きをする場合がありますので、水平で安定した場所に設置してください。



1 エンジンを始動し、回転が安定しているか確認します。スロットルレバーは「高速」の位置になっているかを確認します。



- 枝を粉碎機の投入口へ投入します。粉碎が始まったら素早く手をはなします。
- 枝は粉碎機の投入口（ホッパー）角度に保ちます
- 枝が短くなり、投入口（ホッパー）内に取まったら、必要に応じて次の枝を投入口へ押し込みます。
- 枝の直径が5cm 以上の場合は、1本の枝だけを投入口（ホッパー）へ投入します。5cm 未満の場合は、一度に複数の枝を投入できます。
- 緑色の枝は硬い木よりも粉碎しやすいです。
- 投入口（ホッパー）に材料を投入するときは必ず保護手袋を着用してください。

Point

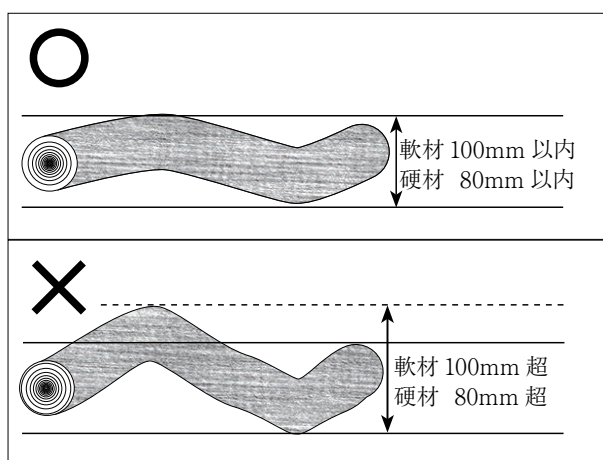
粉碎中はエンジンの音をよく聞いて、回転が落ちている場合は、枝木の投入をやめてください。その後、エンジンの回転が高速になったら、枝木の投入をはじめます。連続で投入すると、エンジンやベルトに負荷がかかり、機械の寿命が短くなります。無理な作業を続けての故障は保証対象外となりますのでご注意ください。

！ 警告

枝木を投入口（ホッパー）へ投入するときは、必ず木材径が使用できる範囲内であることを確認してください。投入物が飛んでくることもあるため、投入口（ホッパー）前には立たないでください。

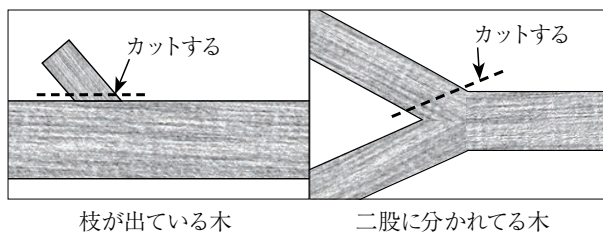
○ 木材投入口投入径について

投入できる太さは軟材φ 100mm、硬材φ 80mm 以下となります。極度に曲がっている木や枝、二股などに分かれてる木は投入できません。投入する際は枝や二股の部分のカットして投入してください。また釘等が刺さっている場合は取り除いてから投入してください。



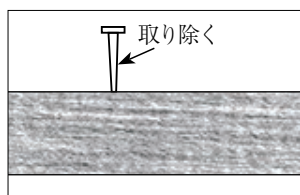
！ 警告

• 下記のような木材は、枝や二股部分をカットしてから投入してください。釘等が刺さっている場合は必ず取り除いてから投入してください。



枝が出ている木

二股に分かれてる木



釘等が刺さっている木

○ 竹の粉碎について

生竹以外は投入しないでください。古い竹は詰まる可能性が大きく、詰まると取り除くことは大変困難です。おやめください。

！ 警告

- ・湿った木材や、腐った木材は詰まりの原因となりますので避けてください。湿っている木材は乾燥させてから投入してください。
- ・規定の木材径よりも大きい枝を投入しないでください。投入口から長く出るような木材は分割してから投入してください。
- ・粉碎した木片が飛散して怪我をする恐れがあるので、投入口（ホッパー）や排出口（シューター）付近には、絶対に手や指を入れないでください。顔を近づけることも危険ですのでおやめください。

粉碎機の投入口（ホッパー）内や、排出口（シューター）内に枝や粉碎物が詰まったままエンジンを停止しない場合は粉碎機が深刻な損傷を負う場合があります。この損傷は保証対象外となります。このため、詰まった場合はただちにエンジンを停止し、電源を切ってください。

！ 注意

枝木を投入後は無理に押し込んだり、ねじったりしないように粉碎機自体の粉碎ペースで引き込ませるようにしてください。

エンジンの回転が著しく落ちたり、ベルトから煙や異臭、異音がするときは速やかにエンジンを停止してください。使い続けると負荷がかかり、故障の原因となる恐れがあります。

ご使用後の点検

ご使用が終わった後は、本機を安全に長くご使用いただくためにも、きちんとした管理とメンテナンスを心がけていただくようお願いいたします。また、使用時に燃料漏れやオイル漏れがある場合は、速やかに修理、点検を行ってください。

1 各部にオイル漏れ、傷やヒビ、ゆがみがないか確認し、異常がある場合は修理・交換をおこなってください。

2 粉碎した木片などは乾燥しやすく、燃えやすい材質です。本体の近くに残さないようご注意ください。

3 長期間使用しない場合は、燃料を抜き取り、適切なメンテナンス後、雨風や日光の当たらないところで保管してください。
[長期間使用しない場合 25 ページへ]

4 保管する場合は必ずエンジンやマフラーが冷えてから保管してください。また近くに可燃物や火気のある場所には保管しないでください。

！ 注意

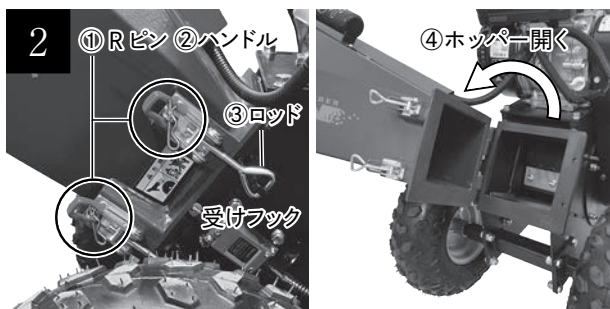
本機ご使用後は必ず投入口、排出口、回転刃、固定刃、回転軸周りに残骸が残っていない状態で保管をしてください。また、ご使用後は粉碎した木片や塵などを取り除いて雨風の当たらないところで保管してください。

！ 警告

- ・エンジンは必ず切ってから行ってください。
- ・素手で詰まりを取り除くことは大変危険です。絶対に行わないでください。

木片が詰まったとき

- 1 エンジンスイッチを「OFF (○)」にします。エンジンが停止したことを確認してください。



2箇所のホッパーロック(トグルクランプ)を解除します。

- ① Rピンを取り外します。
- ② ホッパーロックのハンドルを起こして解除します。
- ③ 受けフックからロッドを外します。
- ④ ロックを外すと投入口(ホッパー)が開くので、注意しながらゆっくりと横に傾けて開けてください。

投入口(ホッパー)を開くと、回転刃が見えるようになります。



刃のついた回転軸が回らないようにダンボールや板などを挟み、手袋、保護メガネを着用して、粉碎室に詰まった枝木を取り除きます。

- 4 投入口(ホッパー)を開いた時の逆順で閉じます。必ず2箇所のホッパーロックをかけて、Rピンを取り付けます。

- 5 エンジンをかけ、異常がないことを確認します。

！ 注意



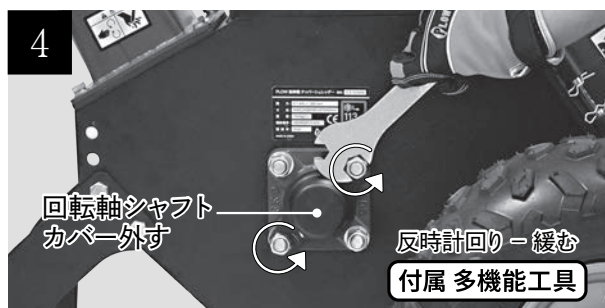
ホッパーを閉じる際は、必ずホッパーロックをしっかりとかけてください。ホッパーが確実に閉じていない場合は、安全停止スイッチが働き、エンジンは始動しません。

刃のついた回転軸が動かないとき 1

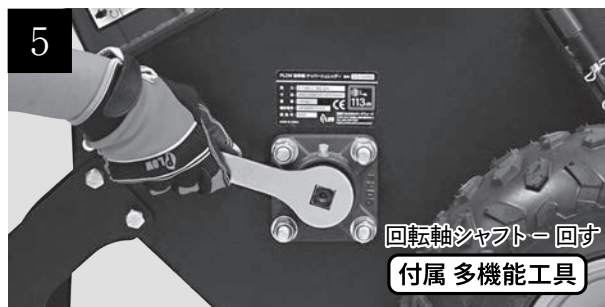
- 1 エンジンスイッチを「OFF (○)」にします。エンジンが停止したことを確認してください。

- 2 25ページ「点火プラグの点検・清掃」の①手順で、点火プラグキャップを取り外します。

- 3 19ページ「木片が詰まったとき」②手順で、投入口(ホッパー)を開き、ホッパー内に残っている枝や木屑を取り除きます。



側面の回転軸シャフトカバーを固定している2箇所のナットを、付属の多機能工具または19mmレンチを使用して外し、カバーも取り外します。



投入口(ホッパー)を開きます。付属の多機能工具を使用して回転軸のシャフトを回し、回転軸(回転刃)を動かします。

- 6 回転軸が回転するので、詰まっている木片や塵を取り除いてください。回転軸部分が木片や塵で詰まってしまっている場合は、手袋、保護メガネを着用して、刃のついた回転軸が回らないようにダンボールや板などを挟み、直接手を入れずに棒などで詰まりを取り除きます。

- 7 投入口(ホッパー)を取り外した時と逆順に閉め、回転軸のシャフトカバー、ナットを締めて元に戻します。

- 8 点火プラグキャップを装着します。

- 9 エンジンをかけ、異常がないことを確認します。

！ 指示

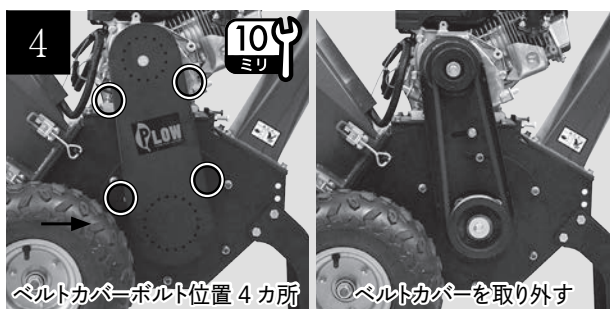
- ・前ページの「刃のついた回転軸が動かないとき 1」をためしてうまくいかない場合は、下記の方法で刃の詰まりを解消してください。
- ・エンジンは必ず切ってから行ってください。

刃のついた回転軸が動かないとき 2

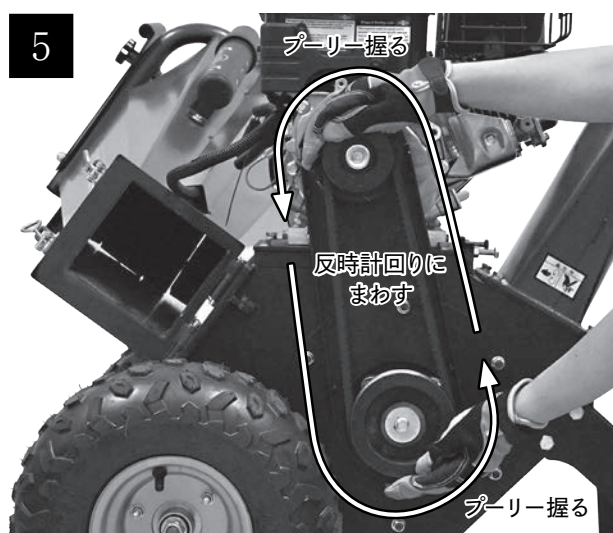
1 エンジンスイッチを「OFF (○)」にします。エンジンが停止したことを確認してください。

2 25 ページ「点火プラグの点検・清掃」の①手順で、点火プラグキャップを取り外します。

3 19 ページ「木片が詰まったとき」の②手順で、投入口（ホッパー）を開きます。ホッパー内に残っている枝や木屑を取り除きます。



ベルトカバーを止めている 4 カ所のボルトを 10mm レンチで外し、ベルトカバーを取り外します。



ベルトが付いているプーリーの両輪を手でしっかり握り、反時計回り方向にゆっくり回します。

6 回転軸が逆回転するので、詰まっている木片や塵を取り除いてください。回転軸部分が木片や塵で詰まってしまっている場合は、手袋、保護メガネを着用して、刃のついた回転軸が回らないようにダンボールや板などを挟み、直接手を入れずに棒などで詰まりを取り除きます。

7 ベルトカバーを取付けます。

8 投入口（ホッパー）を開いた時の逆順で閉じます。必ず 2 箇所のホッパーロックをかけて、R ピンを取り付けます。

9 点火プラグキャップを装着します。

10 エンジンをかけ、異常がないことを確認します。

8 メンテナンス

！ 警告

- ・点検整備をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- ・粉砕作業の終了直後はエンジンが高温のため、触れるとヤケドをします。エンジン本体やマフラーなどには不用意に触れず、必ずエンジンが冷えたことを確認してから作業を行ってください。
- ・オイル交換作業は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。排油は粉砕作業終了後、油温が適度に冷えてから行ってください。本機に付着したオイルは綺麗に拭き取ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- ・本機は水平な場所に設置し、足をひっかける一切の障害物を撤去してください。安全を常に確保して作業を行ってください。
- ・十分な採光の元で、作業を行ってください。
- ・排気ガスに十分注意して、換気の良い場所で作業を行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・メンテナンスのため、本機に取り付けられているパーツや保護カバーを取り外すときは、その部分の作動が完全に停止していることを確認してください。メンテナンスのために取り外したパーツや保護カバーは必ず元の通りに取り付けてください。
- ・点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。

！ 注意

- ・各種メンテナンスは本書を熟読し、理解してから実施してください。また、ご不明な点等がある時は、ご購入された販売店もしくは発売元までご相談ください。
- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- ・投入口（ホッパー）を開いて異物を取り除いたり、メンテナンスを行った後は、ホッパーを閉めて必ずロックをしてください。ホッパーが確実に閉まっていない場合は、安全停止スイッチが働いてエンジンは始動しません。
- ・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。
- ・下記の点検事項、運転時間以外でも、異音や異常振動、傷やヒビによるオイル漏れなどが見受けられる場合は作業を中断し直ちに補修などの措置を講じてください。絶対にそのまま使用しないでください。

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヵ月後又は 5時間運転後	3ヵ月毎又は 50時間運転	6ヵ月毎又は 100時間運転	1年毎又は 300時間運転	掲載ページ
燃料（※）	ガソリン量、漏れ	●					P. 9
エンジンオイル	オイル量	●					P. 9
	交換		●	●			P.22
エアクリーナー	清掃	●		●			P.24
	交換					●	P.24
点火プラグ	清掃	●			●		P.25
	交換					●	P.25
投入口・排出口 回転刃・固定刃	清掃・点検	●					P.10
	ボルト締め付け						P.23
グリス	清掃	●					P.24
	グリス注入			3時間運転毎			P.24
タイヤ	空気圧	●					P.11
固定ボルト	点検・締め付け	●					P.11

（※） 燃料は必ず購入1か月以内の新鮮なレギュラーガソリンをご使用ください。それ以前の燃料は劣化により点火しづらくなるだけでなく、キャブレター内にタール状の沈殿物を発生させ、エンジンに不具合が生じる場合があります。

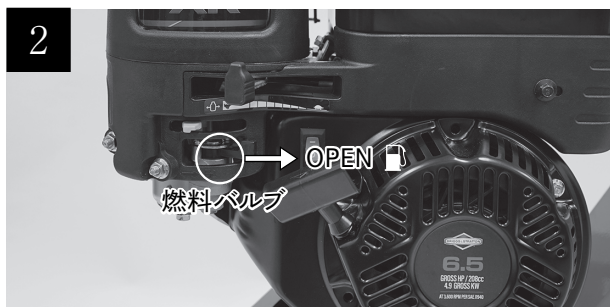
燃料の抜き方

長期間使用しない場合は燃料をの抜き取りを行ってください。必ずエンジンが停止していることを確認の上、作業を進めてください。

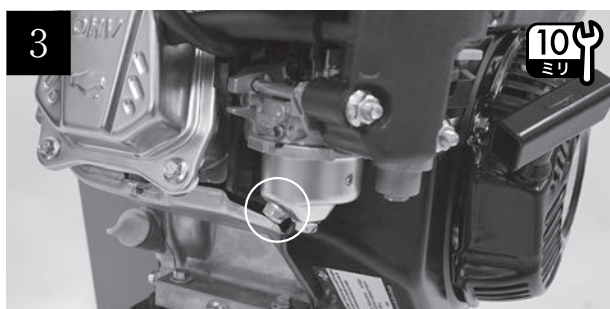
■用意するもの：廃油受け



本機を水平な状態で置いてください。
燃料タンクのキャップを取り外します。タンク内の燃料を手動ポンプなどで抜き取ります。



燃料バルブを『OPEN  (→) 開』にします。



写真で示している○で囲んでいるボルトを10mmのレンチで緩めて、燃料を廃油受けに受けます。

4 燃料を抜き取り終わったら、緩めたボルトを締めてください。
燃料バルブを『CLOSE  (←) 閉』にします。

！ 注意

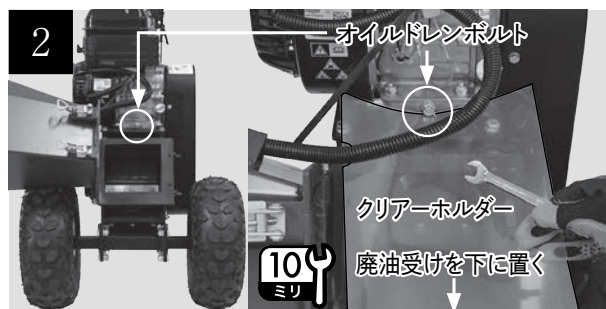
- ・緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。ガソリンが漏れると引火の危険があります。
- ・こぼれたガソリンは、布などで直ちに拭き取ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルは、初回1か月または5時間経過後に交換してください。以降は、運転3か月または50時間毎に行ってください。

■用意するもの：廃油受け、クリアーホルダー、エンジンオイル

1 本機を水平な状態で置いてください。
10 ページ「投入口ホッパーの開き方」の手順で、投入口（ホッパー）を開きます。



エンジンオイルを抜く際に、廃油受けまでオイルを流すためのクリアーホルダーをドレンボルトの出口下に置き、10mmのレンチ等でボルトを外します。クリアーホルダー上に流れたオイルを下に置いた廃油受けに入れてください。オイル給油キャップを外して行くとオイルが抜けやすくなります。抜き終わった後は、ドレンボルトを確実に締めてください。オイルドレンワッシャーはそのまま使用し続けるとオイル漏れの原因になりますので、エンジンオイル交換毎に新しいものに替えてください。

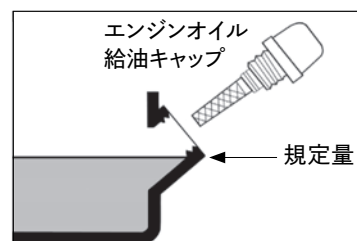
Point

オイルエクストラクターを使用するとエンジンオイルを簡単に交換することができます。



投入口（ホッパー）を閉じます。本体を水平な場所に移動させ、エンジンオイル給油キャップを外します。

4 新しいオイルを、規定量の上限位置まで給油します。



5 給油後、エンジンオイル給油キャップを確実に閉めます。

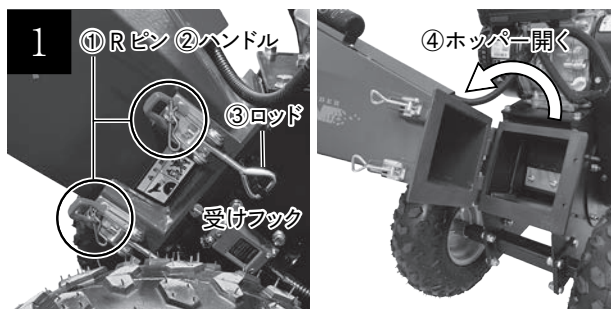
回転刃・固定刃の点検

枝木や異物が入っていないかを確認します。

警告

- ・必ずエンジンが停止していることを確認の上、作業を進めてください。
- ・投入口（ホッパー）内へは決して直接手や指を入れないでください。
- ・刃のボルトは、緩んでいたら必ず増し締めを行ってください。怠ると重大な事故が起こる可能性があります

投入口（ホッパー）を開きます。

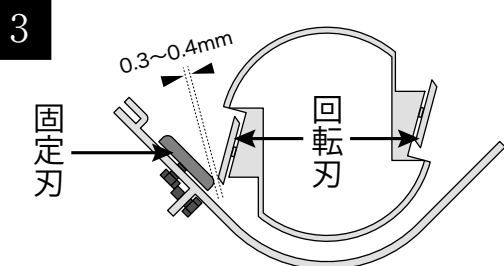


2箇所のホッパーロック（トグルクランプ）を解除します。

- ① Rピンを取り外します。
- ② ホッパーロックのハンドルを起こして解除します。
- ③ 受けフックからロッドを外します。
- ④ ロックを外すと投入口（ホッパー）が開くので、注意しながらゆっくりと横に傾けて開けてください。

投入口（ホッパー）を開くと、回転刃が見えるようになります。

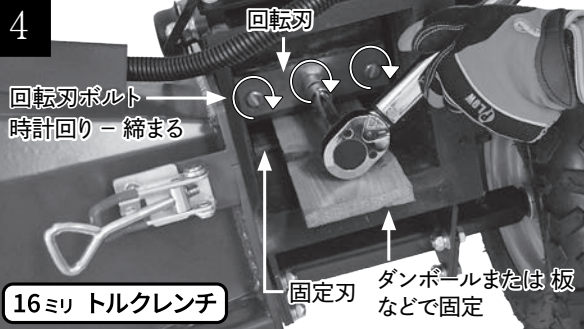
- 2 投入口（ホッパー）に枝木や異物が入っていないことを確認します。棒などを使用して確認してください。枝木や異物が入っていた場合は取り除きます。



投入口（ホッパー）を開けます。回転刃（2枚）と固定刃に、割れ、曲がり、磨耗などの異常、緩みがないか確認します。そのまま使用すると、重大な事故や故障の原因になります。

指示

19 ページ「刃のついた回転軸が動かないとき1」のように、回転軸シャフトを回して、もう片方の回転刃も確認し、点検してください。



回転刃のボルト（3カ所）がゆるんでいないか確認します。緩んでいる場合は、16mm のトルクレンチで増し締めしてください。刃は回転軸に2箇所あります。挟んでいたダンボール（または板）を一旦外し、回転軸シャフトを回します。回転軸が回り、反対側の刃が見えますので、再度ダンボール（または板）を使って、仮固定をした上で、増し締めをします。

刃のボルト締め付けトルク基準値	54 N.m
-----------------	--------

注意

回転刃のボルトは、頭が薄い低頭ボルトを採用しています。ボルトの頭をなめないように慎重に行ってください。



本体側に取り付けられている固定刃が緩んでいないか必ず確認してください。緩んでいる場合は本体下側からそれぞれ増し締めを行います。

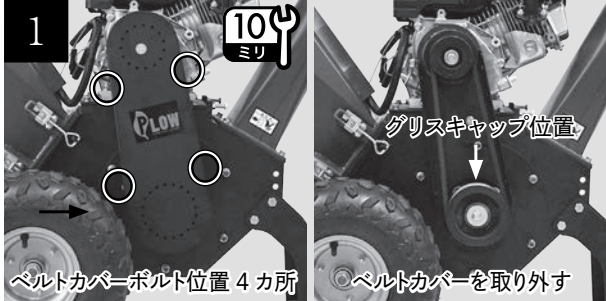
刃のボルト締め付けトルク基準値	54 N.m
-----------------	--------

- 6 投入口（ホッパー）を開いた時の逆順で閉じます。必ず2箇所のホッパーロックをかけて、Rピンを取り付けます。

グリスの塗布

本機の使用後は各部清掃し、運転3時間毎ごとに軸受け部分へ機械用グリスを注入します。その他タイヤシャフト部分へ適宜塗布してください。

■用意するもの：機械用グリス、グリス注入器



ベルトカバーを止めている4カ所のボルトを10mmレンチで外し、ベルトカバーを取り外します。グリスキャップが見えるようになります。



軸受け部分のグリスキャップを取り外します。ニップルの先端を拭いてから、グリス注入器を接続して、グリスを注入してください。

3 余分なグリスを拭き取り、グリスキャップをします。

4 ベルトカバーを取付けます。



もう一方の軸受け部分にも、[2]の手順のようにグリスを注入してください。

7 タイヤシャフト部に潤滑油やグリスを塗布します。

エアクリーナーの点検・清掃

エアクリーナーは50時間毎、もしくは砂ほこりの多い場所での使用後は、点検・清掃を行ってください。



エアクリーナーカバーの上の蝶ネジを反時計方向に回し、カバーを取り外します。



中のエアクリーナーを取り外し、内側からエアなどで吹いてゴミを取り除きます。外側のスポンジ部分は中性洗剤で良く洗い、よく乾かして取り付けてください。汚れがひどい時や、スポンジが劣化している時は新しいものに交換をしてください。

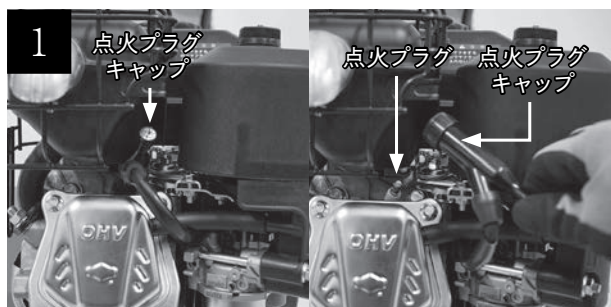
！ 注意

エンジン停止後は、マフラーやマフラーカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。エアクリーナーの点検・清掃は安全な温度に下がった状態で行ってください。

点火プラグの点検・清掃

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。

■用意するもの：ワイヤブラシ



点火プラグキャップを取り外すと、点火プラグが見えます。

2 点火プラグを付属のプラグレンチで取外します。

3 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。

4 取り外しと反対の手順で取り付けます。

！ 注意

点火プラグキャップは、点火プラグにしっかりとはめてください。
はめ込みが足りないと点火しません。

適応点火プラグ

チャンピオン：RC12YC
NGK：BKR5E

長期間使用しない場合

長期に渡り粉碎機を使用しない場合は、以下の手順でメンテナンスを行ってください。

1 保管場所は、平坦で堅い地面に、水平を保つように置いてください。

2 燃料タンクとキャブレターの燃料を抜いてください。
[燃料の抜き方 22 ページ]

3 エンジンをかけます。燃料切れで停止するまでエンジンを回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。

4 エンジンスイッチを「OFF (切)」にします。

5 点火プラグキャップを外します。
[点火プラグの点検・清掃 手順I] 25 ページ]

6 チョークレバーを「右」に移動します。

7 湿気やホコリが少なく、雨風や日光の当たらないところ、また子供の手が届かない場所に保管してください。

メンテナンスのご相談窓口

ベルト・回転刃・固定刃の交換やメンテナンス、修理のご相談は、お買い上げの販売店またはプラウカスタマーサポートへご相談ください。

プラウカスタマーサポート




025-530-6025

10 故障かな？と思ったら

■エンジンがかからない

症 状	原 因
点火プラグに火花が出ていない	点火プラグ不良
	点火プラグキャップ接続不良
キャブレターに燃料が来ていない	燃料がはいっていない
	燃料ホースの詰まり、漏れ
	燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり（ニードル・バルブ固着） 燃料コックが閉じている
オイルがガソリン臭い	オイルにガソリンが混ざっている
リコイルが回らない、リコイルロープが引けない	投入口（ホッパー）に木材や草が入っている
	異物がひっかかって刃が回らない
	投入口（ホッパー）が完全に閉じていないため、安全停止スイッチが働いている
	エンジンオイルが過剰に充填されている
エンジンが始動しない、または勝手に停止	燃料が残っていない
	エンジンオイルがない または エンジンオイルが少ない
	投入口（ホッパー）が完全に閉じていないため、安全停止スイッチが働いている

■エンジンはかかるが、回転があがらない

症 状	原 因
エンジン回転数が上がらない	古い燃料が入っている
	スロットルレバーが「高速  」になっていない
	エアクリナーが汚れている
	点火プラグが汚れている

■過度の振動

症 状	原 因
本体が振動する	刃のバランスがとれていない
	刃の割れ・曲がり・摩耗など
	刃の取付けボルトが緩んでいる
	回転部 または 投入口（ホッパー）内に木材を詰め込み過ぎている
	回転部 または 可動部がゆがんでいるもしくは損傷している

■うまく粉碎ができない

症 状	原 因
木が粉碎できない・チップが放出されない	刃の刃先が極端に摩耗している
	刃の取付けボルトが緩んでいる
	投入口(ホッパー)内や、排出口(シューター)内に木屑が詰まっている
	木や草、枝が濡れている
	木材や枝が過度に硬い または 時間が経過した古い竹が入っている
木材や枝の直径が大きすぎる	

■刃が回転しない、異音

症 状	原 因
刃が回転しない	投入口(ホッパー)内や、排出口(シューター)内に木屑が詰まっている
	回転ベルトの切れ、摩耗
刃が回転すると異音	プーリーの破損

11 仕様表

型式	CS100KN	
機 体	全長	1,720 mm
	全高	1,105 mm
	全幅	580 mm
	重量	110 kg
エ ン ジ ン	メーカー	B & S (ブリッグスアンドストラットン)
	エンジン型式	XR6.5 [130G]
	エンジンタイプ	空冷単気筒 4 ストローク OHV エンジン
	排気量	208 cc
	燃料タンク容量	3.1 L
	エンジンオイル量	0.6 L
	スパークプラグ	チャンピオン: RC12YC NGK: BKR5E
	点火方式	マグネット式
	潤滑方式	強制飛沫式
	燃料	無鉛レギュラーガソリン
始動方式	リコイルスターター	
シ ユ レ ッ ダ ー 性 能	粉砕可能材	生木・枝・生竹
	粉砕可能枝 最大径	軟材(生の枝・生の木・生竹): ϕ 100mmまで 硬材(乾燥枝): ϕ 80mmまで
	ブレード回転速度 (無負荷)	3,600 rpm
	刃 (チップパーナイフ)	両刃 2枚
	投入口 (ホッパー) サイズ	長さ 345 mm × 幅 355 mm
タ イ ヤ	タイヤサイズ	AT 145 / 70 - 6
	タイヤ空気圧	69 kPa (0.7 kg/cm ²)

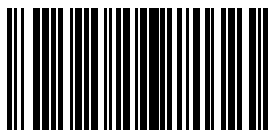


パーツリストについては、プラウ ホームページでのご案内となります。

左の QR コードまたは下記 URL からアクセスしてください。

「部品図・パーツリスト」ページ URL

bit.ly/plowparts



PRT-0017

発売元 株式会社ホンダワーク

〒943-0173 新潟県上越市富岡256-2

お問い合わせ先 ☎025-530-7025

<https://plow-power.com/>

